

優奈と不知火が行く涼 宮ハルヒの消失

壺逢のアルキニスト

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

超独自解釈による涼宮ハルヒの消失です

このキャラは違うブヒイや原作を汚すなゴミ屑野郎という反論は聞かないので悪しからず

目次

優奈と不知火が行く涼宮ハルヒの消失

1

優奈と不知火が行く涼宮ハルヒの消失

期末テストが返され珍しく平均点を越えた鹿君、良かったね〜そんなある日の放課後
SOS団の溜まり場となった文芸部室に全員集合していた

鹿君「もうすぐで冬休み楽しみだな」

優奈「こちとら壱逢とこっちので課題二バ〜イ」

不知火「手伝いましょうか？」

古泉「そうですね!!前半はみんなで勉強して後半は知り合いの別荘に行きませんか
?」

ハルヒ「いいじゃない!!別世界の課題とか不思議に違いないわ!!さっすが古泉君」

みくる「書き初めは任せて下さい!!」

長門「…」

鹿君「あ〜ハルヒ、クリスマスはパスだ」

ハルヒ「どうしてよ?まさか『彼女と超マニアックプレイするから無理』とかならシ
バくわよ?」

鹿君「んなわけあるか、妹のクラスが施設でお遊戯会するらしくてなそれの手伝いだ」

ハルヒ「それって外部も参加できる？」

鹿君「そういうと思って妹からプリント借りてきた」

プリント『お遊戯会、参加自由ですが00月X日のPM17:00迄に施設長の〇〇まで連絡を下さい連絡先は下記に書いております』

ハルヒ「ギリギリじゃない!?ちよつと掛けてくるわ!!」

優奈「はあ…クリスマス会は欠席だな」

不知火「間宮さんのケーキ食べたかったぬい…」

古泉「そういえば優奈さん、次元の歪みって何日位ですか？」

優奈「忝逢は誤差2日でナオんとこが2ヶ月で鈴木が半年でみずほ先生んところが一年でポケモン世界が一年半でハムちゃんか3年だな」

古泉「ありがとうございますなら来年の夏休みですね」

不知火「バレましたか」

鹿君「なるほど…」

みくる「どういうことですか？」

古泉「不知火さんが夏に美味しいケーキを食べるってはなしですよ」

みくる「なるほど」

長門「きた…」

バタバタドカン

ハルヒ「何とか取り付けてきたわ!! 優奈さん、休日だけバイトさせて!!」

優奈「はいよ、少しだけイロ付けてあげよう」

ハルヒ「それとキョンとみくるちゃんは楽しみにしときなさいよ!!」

長門「…」パタン

古泉「時間ですね」

不知火「優奈さん夕飯何にしますか?」

優奈「そういや昨日フィッシュャー青龍（あおたつ）が鯰くれたから半身は刺身と豆腐とネギの味噌汁にして明日はぶり大根だな」

不知火「わさびは入りませんかからね!」

優奈「わくてるよ」

次の日

鹿君「よう、国木田」

国木田「おはようキョン」

???「よう、ギョン」

鹿君「風邪か? 谷口」

谷口「ぞうみだいだぞうだりするかもな」

???' 「あら?今日は早いのね?」

鹿君「なあ国木田、何で朝倉がいるんだ?アイツ転校したはずだろ?」

国木田「何寝惚けてるんだい?朝倉さんはずっといたよ?」

朝倉「んもくまだ寝惚けてるんじゃないちよつと顔洗って来たら? (詳しい話は後で話すわ)」

鹿君「そうしとく:」

時は吹き飛び昼休みくの屋上に震える鹿君と鹿君の上着を羽織っている朝倉がいた

朝倉「にしても朝起きたら何か帰っていたから驚いたわ!!」

鹿君「で、何かわかったのか?」

朝倉「悲しいことにアナタ以外全滅よ全滅!!はあ:本当なら今日は天龍さんが『たまには男飯しないとな!!』『天龍ちゃん?流石ににんにくマシマシ餃子や二郎系は辞めてね?』を楽しみにしてたのに:キョン君、一緒に原因探さない?」

鹿君「原因つてもお前じゃないのか?」

朝倉「失礼しちゃうわ!!今は何の能力もないか弱い女の子なんだけどヨヨヨ」

鹿君「わかったわかった (これもお前が原因か?ハルヒ:)」

朝倉「はあ:何でこんな時に限って優奈さんや不知火ちゃんも居ないのよ:」

またもや吹き飛び放課後

朝倉『長門さんは部室よ私は買い物あるから明日ね〜』

鹿君「と言われたのだが…」

くく

???「ど、どうぞ」

鹿君「よう、は違うな初めましてだな…長門」

そこには怯える小動物みたいな宇宙人長門有希がいた…後、二体の人形

???『よう、鹿君元気〜』

???『手を出したら元に戻り次第去勢してやるぬい』

鹿君「優奈さんに不知火!?何で人形に…」

優奈『寝てたら何者かにやられた!!』

不知火『私もです…』

長門「知り合い?」

鹿君「ああ、かなり振り回されているがな」

長門「なら…貴方が持ったほうがいい」

優奈『いやだ〜!!アイツの『閲覧規制』に突っ込まれて『閲覧規制』される〜!!』

不知火『元に戻りたい…』

長門「ひい!?!」

鹿君「するわけないだろ!?!とにかく帰りますよ、長門さんまた来ますね」
すたすた

此方は鹿君の部屋

鹿君「で、何か伝言はありませんか？」

優奈『伝言ねえ〜?』

不知火『そういえば机に薄い字で『鍵を揃えよ期限は後3日』と書かれてましたね鍵とは?』

優奈『なんだろね〜』

鹿君「ハルヒや古泉も居ないしどうすりゃいいんだよ…」

次の日…

鹿君「そういや朝比奈さんも居ないな一応調べて『行つたけど鶴屋さんに門前払いされたわありや理由無しなら硬いわ』朝倉か」

朝倉「おはようキョン君♪」

鹿君「茶目っ気を出すなで、何か用か？」

朝倉「そうそうはい入部屋、長門さんから頼まれたのよ」

鹿君「なぜ？」

朝倉「長門さんが心配してたのよ?何か『あの人に渡さないといけないような気が

…』って」

※かなり簡略しているよ!!

吹き飛び昼休みの屋上に缶コーヒーを持った鹿君と鹿君の上着を羽織ってぬくぬくしている朝倉がいたって天井やな…

優奈『入部したら『閲覧規制』し放題ですぜ?』

不知火『したらしたで去勢してやるぬい』

朝倉「優奈さんに不知火さん!?!」

優奈『よう、今はスパークドール三角優奈だ』

不知火『同じくスパークドール不知火です』

鹿君「部室で長門といたよ」

朝倉「盲点だったわ…優奈さん何とかできない?」

優奈『無理!!テレパシーが限界だ!!』

不知火『同じく…』

朝倉「詰みね…」

鹿君「明日が期限だ…どうすりゃいいんだよ…」

次の日…描写はないが朝倉の家でおでんを食べたらしい

鹿君「はあ…」

谷口「どうした？元氣ないなくナンパ失敗したのか？」

鹿君「そういや谷口、ハルヒ知らない？」

谷口「ハルヒってまさか…涼宮ハルヒか!？」

鹿君「知っているのか!？」

谷口「そりやもちろん!!あんなヤバイ奴を忘れるわけないわ!!」

鹿君「今何処にいるんだ？」

谷口「光陽園だ」

鹿君「女子高だし当然だな」

谷口「なに言ってるんだ？あそこは共学だ」

鹿君「共学だと!？」

吹き飛び昼休みくの部室に続く廊下に鹿君と朝倉がいた

朝倉「まさか光陽園が共学になるなんて予想外だわ…キョン君行くの？」

鹿君「無論、だが行くのは放課後前です」

パイプ椅子装備の朝倉「なら私に任せて♪ちよつとキョン君ゴメンね…」

鹿君「グハッ!？」

鹿君の内ポケットにいた優奈『殺りやがったよ!？』

同じく不知火『惜しくない害獣が逝ったぬい…』

朝倉「ちよつと着崩してつと…」

先生助けて!?

どうしたのかね!?

知らない人がいきなり襲いかかって私を庇ったキヨン君が…キヨン君が死んじやう!!

優奈『大根役者様々だな』

不知火『ヤりますね』

その時である!!

優奈「今かよタイミング悪すぎだぜ」

不知火「復活ぬい」

優奈「ヤバッ!?禁流…インビズイボオ」

おい!!大丈夫か!?!おい!!

死なないで!!キヨン君!!

気配を消している優奈『どするよぬいぬい?』

もなずく不知火『サツが来る前に何とかしましょう』

蚊の羽音並みの音量の携帯『カモン、ドクター相模&ポリス日立!!』

ドクター相模「患者はここか」

ポリス日立「何で非番に限って呼ばれんだか…」

先生「な、なんだね!? 君達は!!」

ドクター相模「俺は医者だ!!」

ポリス日立「こう見えて警官です」

朝倉「キョン君は助かりますか!？」

ドクター相模「治療代は二億だ、ビター文まけないからな」

朝倉「わかりました…」

ポリス日立「相模さんまたやってたのか?」

ドクター相模「で、ホシはパクれそうか?」

ポリス日立「んにや、とりあえずこの子とアッチに隠れてるバカから聞かんとな出て

こい嵐!!」

バサッ

優奈「こういうのは黙ってるのが正解だぞ」

不知火「正義感は時に破滅を呼ぶぬい」

朝倉「二人とも元に戻ったのね!？」

優奈「さつきな」

不知火「去勢すりゆ?」

先生「なんだね!? 君達は!!」

優奈「通りすがりのチャームिंगな学生だ」

不知火「チャームिंगな学生の妻です」

優奈「ぬかしおるってなわけで古今流：覚醒拳!!」

鹿君「グハツ!? あれ：優奈さんに不知火!？」

※相模と日立は帰りました

朝倉「という訳でキョン君行くわよ!!」

鹿君「なにがだ!？」

優奈「すまんが早退だ」

不知火「お疲れ様ぬい」

すたすたてくてく

優奈「ぬい、先よろ」

不知火「わかりました」

では優奈 side

此方は二年の教室

??? 「ホツホツホ、メウイゝクリスマゝス!! 少しでも早いユナタクロースが来たぞ!!

やや、そちらにおわすは朝比奈みくる大先生ではないか!! 貴女作品を見た知り合いが

『インスピレーションがピンピンだわ!!』って言うておったわささ、こちらへ」

朝比奈さん「あのくどちらへ向かっていいるのですか？」

ユナタクローズ「一年のクラスじゃな」

すたすたチリンチリン

ユナタクローズ「ホッホッホ、ユナタクローズが来たぞ!!やや、そちらにおわすは長

門有希殿か!!ささ、こちらへ」

一方その頃鹿君達は苦戦していたいや、普通に行こうや

???'「不審者は通さない!!」

不知火「邪魔な警備員ですね：二人は先行くぬいなあに一撃で沈めるぬい」

朝倉「死亡フラグね：キョン君行きなさい」

鹿君「頼んだぞ!!」

警備員「とりあえず入門書を書いて下さい」

不知火「問答無用ぬい第一カチ込みぬい」

朝倉「一応書いとかないとね不知火さんの名前は？」

不知火「不知火は不知火ですではさようなら」

警備員「グハッ!?!」

朝倉「実弾？」

不知火「アシが付くので、暴徒鎮圧用ゴム弾ですではいきますよ」

朝倉「はいはい」

すたすた

その頃鹿君はハルヒとついでに古泉を見つけていた

鹿君「やつと見つけた」

ハルヒ「誰よあんた？」

古泉「知り合いですか？」

ハルヒ「知らないわ次移動教室だし行き『待て!!お前は三年前の七夕に四人の男女に会っている筈だ!!』誰にも話してないのに何で知ってるの…北高…まさか…あんた名前
は!?!」

鹿君「(フルネームか?それともキヨンか?いいや俺は…) ジョン・スミス」

ハルヒ「あんたがああのジョンなの!?!」

鹿君「そうさ…詳しい話は後だ今は『ハリケーンがあります、行きますよ』不知火!!」

不知火「お久しぶりですね lady」

ハルヒ「田吾作の妻さん!?!」

朝倉「ちよつと説明してよ!!」

鹿君「後でだ二人とも来てくれ」

古泉「どうしますか？」

ハルヒ「行くわ!!」ジョンのこと聞きたいしそこに田吾作さんとメアリーさんもいるはずよ」

古泉「わかりました」

すたすた

では三度かわり優奈 side として合流パート

ユナタクローズ「すまんなお嬢さん方こちらにお入り下さいじや」

朝比奈さん「喫茶ハリケーン臨時店？」

ユナタクローズ「ホッホッホ」

長門「あの授業は…」

ユナタクローズ「大丈夫じやろ？ちよつと慌てるだけじやまあ朝比奈さんは内申点に響くかもな」

~~~~~♪

ユナタクローズ「いらつしやい」

ハルヒ「メアリーさん!？」

不知火「ユナタクローズさんプレゼント下さい」

ユナタクローズ「後でなご注文はなんじや？」

鹿君「優奈さんは何処へ？」

ユナタクローズ「ホッホッホ、ある時はユナタクローズ」

バツ

???『またある時は人形』

バツ

タキシード姿の優奈「その実態は私、田吾作改め三角優奈だ!!」

ハルヒ「田吾作さん!？」

朝倉「いろんな衣装があるのね」

優奈「改造学ランは学ランとは名ばかりの防護服だからな弓や槍や刀や不知火の砲撃も防げるが真上は弱点だからな」

ハルヒ「じゃなくて、アンタらは何者なの!!」

優奈「通りすがりのチャーミングな年寄り」

不知火「ぷりちーチャーミングな駆逐艦です」

鹿君「本題だ…」

※詳しい話は原作小説、コミカライズ、劇場版を見よう

ハルヒ「そっちのあたしが羨ましいわ」

優奈「異世界に行けるしないや、待てよ？俺と不知火と鹿君と朝倉（精神）は異世界

人だな」

不知火「ですね特に優奈さんは色んな世界に行ってますからね」

ハルヒ「どんな世界なの？言いなさいよ!!」

優奈「仕方ないにやう、始まりはダチのメカニック鈴木 of 失敗で出会った小国の王様だろ、次にちよつと違う三國志に不知火がいた世界にポケモンがいる世界だろ、最後に薔薇の世界だな」

鹿君「改めて聞くとデタラメにしか聞こえませんか」

不知火「現実ぬい」

優奈「俺からしたら夢みたいな体験だがなほい、コーヒーとサンドイッチついでにパフェだコーヒ―は備え付けの砂糖とガムシロとコーヒ―フレッシュをお使い下さいだ」  
不知火「美味しい…それに比べ私のサンドイッチはまだまだぬい…」

優奈「何を言うか、俺よか水蓮さんやサンドイッチ子爵ことサンド近藤のサンドイッチが美味しいぞ」

ハルヒ「じゃなくて!!どうするのよ!!」

鹿君「優奈さん、朝倉、不知火、なんかないか？」

優倉火『わからん(ないわ)(ぬい)!!』

鹿君「詰み『あの…』なんだ？長門」

長門「さつきから部室にあるパソコンが変なんです…」

優奈「なしてわかるんだ？」

長門「入部したての頃お隣の部長さんが『このパソコンを文芸部の部長に渡すよう頼まれてねそれとなんか知らない機能があるらしく君の携帯を貸してくれないか？』って…」

不知火「謎が増えましたねどうしますか？」

優奈「とりあえず隣のバカをシバキに行きたい所だな」

鹿君「行きましょう!!」

優奈「どする？お三方？」

朝比奈さん「荷物がありますし行きます!!」

ハルヒ「行くわ!!謎のパソコンなんてワクワクするじゃない!!」

古泉「涼宮さんが行くなら僕も行きます」

朝倉「私は!？」

優奈「聞かんでもわかんだろ？」

最近ちよつとずつだが出番があつて嬉しい携帯『カモン!!ターボラングルキャンピン  
グモード!!』

※イメージ的にはロデイマスコンボイの後ろがデツカイバージョンです

ターボラングル「では行きますよ」

優奈「裏門に止めてくれよ？」

ターボラングル「了解!! 正面突撃ですね!!」

鹿君「違うからな!？」

不知火「召喚ミスりましたね」

優奈「こりやナカちゃんポイントだな」

不知火「ナカちゃんポイントとは?」

優奈「社会全壊窓のナカちゃんと一晩中過ごす権利だちな写真みる?」

写真『那珂ちゃんの格好した髭の生えた筋肉モリモリマッチョなおっさんとブルーベ

リー色のツナギを着たイイ男と紐パンだけ履いた筋肉モリモリマッチョの変態』

どうあれが見ただけで『閲覧規制』されるイイ男だつてえ? 酷いわ!! こんなに可憐な

漢女を虐めるなんてヨヨヨ

朝倉「ちよつと気分悪くなったわ…」

ターボラングル「もうすぐ着きますぜ!!」

優奈「突撃く♪」

すたすたガチャンガチツ

朝比奈さん「どうして鍵まで閉めるんですか!？」

優奈「そりや思春期男子が三人いりやわかんだろ？」

鹿君「違います!!長門パソコン借りるぞ」

長門「いいけど…」

不知火「ファイル開いたら去勢ぬい」

パソコン『このプログラムは涼宮ハルヒ、朝比奈みくる、古泉一樹、不知火、三角優奈、朝倉涼子そしてキヨサツプ・鈴木が揃うと展開されるプログラム…』

全員『キヨサツプ・鈴木って誰だよ!!』

パソコン『今のは冗談…』

鹿君「リアルタイム受信か!？」

パソコン『話を進める…エンターを押せばいつもの世界にそれ以外ならこの世界に私としては貴方にまた会いたい…また図書館に…y u k i . N』

優奈「いつの間にか長門とフラグ立ってたんだけ？」

不知火「やはり害獣ぬいどうせ古典文学コーナーで『閲覧規制』してるはずぬい」

朝倉「優奈さんの言う通りね」

ハルヒ「ジョン!!説明してよ」

優奈「我輩が説明してやろう、朝倉は居ないがこの7人で下らない日常を過ごすか、今から鶴屋さんに俺がボコられるかだ…」

鹿君「決まりだな…長門これ返すわ」

長門「え…」

鹿君「俺や優奈さん、不知火後、朝倉は文芸部員で俺はSOS団団員その1だからな」  
緊急プログラム発動…エラーエラーエラーエラー!!

ドス、ドス

鹿君「ここは部室か?にしても暑い!!」

???「おや?誰かのう?」

鹿君「あなたは…誰!?!」

???「儂は『ちよつとジョン何処なのよここ!!』教育のなつてない童じやな儂は蛙野  
じや」

鹿君「蛙野さんここは一体…後、何でハルヒがいるんだ?」

蛙野「儂は知らんだがほれ九郎に頼まれての新聞を買って夜の部室で待つてくれと  
な」

鹿君「三年前の七夕…」

ハルヒ「つてことは過去の世界!?!」

蛙野「儂は帰るかまたな童よそうじやそうじや、九郎からの伝言じや『悔いなくヤ  
れ』だそうだ」



鹿君「ありがとうございます」

ハルヒ「ジョン!!行くわよ!!」

鹿君「はいはい」

すたすた

一方、近くの路地裏では：

まだ搾り足りないぬい

もういっぱいだしゆ：

乳牛の分際でナマ言うなぬい

ハルヒ「お盛んね」

鹿君「いた：：不知火!!朝比奈さん!!」

不知火「ラツキースケベ鹿ぬい乳牛、さっさと出すぬい」

みくる「見ないで下さいいい」

ハルヒ「目潰し!!」

鹿君「ぐああああ!!」

不知火「そういえばさつき害獣と乳牛と優奈さんと私がいたぬい」

まだ目の開かない鹿君「いつ頃ですか!?!」

不知火「軽く五分前ぬい」

ハルヒ「思い出したわ!! 帰っている途中に『世界を大いに盛り上げるジョン・スミス  
をよろしく!!』って誰かが言っていたわ」

鹿君「なら急ぐか行くぞハルヒ」

不知火「私は乳牛をもうちよい搾ったら行くぬい」

タツタツタ

此方は路地裏にlady? に似た子と不審者がいた

lady? 「ちよつと!」

不審者「こんな時間に一人で歩いていたら悪いおじさんが来ちやうよ」

lady? 「なら離しなさいよ!!」

不審者「怒ったぞ…お前を今からお仕置きし『黙れやポークピッツ』だ、誰だ!」

??? 「通りすがりの狐面した旅人だ!! 飛龍斬悔剣!!」

不審者「ぐひいいい!!」

lady? 「感謝はするわ」

旅人「さっさと帰りな」

lady? 「そうするわ」

旅人「さて、俺も合流するか…」

すたすた

世界を大いに盛り上げるジョン・スミスをよろしく!!

lady? 「?」

鹿君「あばよハルヒ：三年後に会おうな」

ハルヒ「次はどこに行くのよ？」

旅人「あり？ 不知火は？」

鹿君「その声は優奈さん!？」

狐の面をしている優奈「別々に転送されたらしいな：つて何でハルヒがいるんだ？」

鹿君「わかりません!!」

優奈「仕方ない、進まないし朝倉のそこ行くぞどうせ不知火もいんだろうが一応俺用

艦LINE跳ばしとくか」

艦LINE『長門のマンションにいる朝倉の所だ』

ぬい『わかりました乳牛を走らせながら行きます』

優奈「よし、行くぞ〜」

すたすたててく

長門のマンション

優奈「朝倉いる？」

朝倉『遅かったじゃない今開けるわ』

鹿君「朝倉もいたのか…」

優奈「そこはおいおいな」

チーン

優奈「朝倉く開けて〜」

朝倉「はいはいって何で涼宮さんがいるのよ!!」

鹿君「わからん!!」

優奈「願望実現能力が発動したんじゃない?」

朝倉「あの世界にはないはずよ!」

優奈「俺や不知火それとお前がいたんだイレギュラーじゃね?」

朝倉「ふうん、まあ、信じてあげるわ後何故か知らないけど能力が復活しているのよ知らない?」

優奈「悪いなそっちは専門外だそろそろだな」

タツタツタ

????? 「とつとと走るぬい」

????? 「ふひいひい!!」

朝倉「開けるわ」

農家の格好した不知火「来たぬい」

牛みくる「もおお」

鹿君「なにしてんだ!？」

不知火「乳牛の出が悪くなつたから羞恥プレイぬい」

牛みくる「助けてキョン君!!」

朝倉「はいはい話が進まないから行くわよ」

優奈「で、犯人は誰だ?」

朝倉「そこは未来人に頼むわ」

鹿君「朝比奈さん!!」

みくる「ふえ?」

優奈「鹿君これを預けとく」

不知火「私の主砲のレプリカぬい汚したらガチで去勢した後狩猟してやるぬい」

朝倉「なら私も」カップツ♪

鹿君「あ、朝倉!？」

朝倉「ふあひいひよ?ふほふあふあはひへほ(何よ?動かないでよ)」

優奈「ファンガイアか?」

朝倉「プハッ、一発限りのワクチンよハマしたら承知しないわよ」

ハルヒ「朝倉さんって大胆ね…」

優奈「だなく後不知火？腕をガン見しないように」

不知火「ちえ…」

鹿君「ハルヒ、お前は残れ」

ハルヒ「なんでよ!!」

優奈「今から行くのは三年後の世界だ…お前は優奈さんに頼んで別の世界に送るが必ず迎えに来るそれまで待っていてくれたといやゝ愛されてますなんでどこの世界だ？今なら片道料金だ」

不知火「普通に壱逢かメカニックですがポケモンはどうでしょうか？」

優奈「そうだなポケモンにしとくか行くぞハルヒちゃんや」

ハルヒ「ちよつと!?ジョン!!ジョン!!ジョンヨヨン!!」

朝倉「よかったの？」

鹿君「ああ、またな…」

不知火「行きますよ」

朝倉「いつてらつしやい…あの子を止めてね…」

ふよふよふよ

此方は三年後の12月某日の夜中

???「~~~~~」

鹿君「今回の原因はお前だったのか…長門…」

長門「…」

鹿君「何かは知らんがお前を治してやるからな…」

ドス

???「ダメだよ長門さんの邪魔したらいけないんだ♪」

鹿君「あさ…くら…」

不知火「慢心したぬい…」

みくる「キョン君!!キョン君!!」

朝倉「長門さんはねエラーが起こったのよ…だから世界を作り替えたのよ宇宙人ではないただ一人の少女として生きる世界を…それなのに何で長門を撃とうとしたの?」

鹿君「きま…だろ…おれは…あの世界が…」

不知火「喋るな…来た…」

シユタ

優奈「わりい待たせたな!!増援付きだ!!」

???「後は任せろ…俺も痛かったからな…」

鹿君「(朝比奈さんが二人いる…もうヤバイな…)」

チュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュンチュン

鹿君「ん…」

???「お目覚めですか？」

鹿君「美人なら大歓迎だが古泉はお断りだ…」

古泉「ではお目覚めついでに質問をば一昨日何がありましたか？」

鹿君「知らん」

古泉「覚えていないのですか!？」

鹿君「ああ、これぼっちもな」

古泉「貴方には何者かに押され階段から転げ落ちたのですよ!?!それは見事にまるでイヤの回転するようにですがねしかも優奈さんと不知火さんは休んだ日に限ってですよ!!長門さんに気付かれずに貴方を襲うなんて…涼宮さんと朝比奈さんは救急車の中で必死に貴方の名を呼んでましたよ」

鹿君「つてことはここは病院か？」

古泉「ええ、ですが異世界のが付きますがね」

鹿君「異世界？」

古泉「本当は我々の同士がいる病院でしたが優奈さんが『ドクター相模ならなんとかなるかもな』つて夜中の内に移動させたんですよ!!おかげで大目玉を食らいましたがね」



鹿君「そうか…ハルヒはいないのか？」

古泉「涼宮さんならいますよ？貴方の横にしかも驚きましたよなんせ昨日涼宮さんの生き別れの妹？が来たのですからね」

鹿君「はあ？」

古泉「我々ですら見付けられなかったからちよつとショックですよ」

鹿君「そいつは今何処に？」

古泉「そ・こ♪」

鹿君「そこ？」

そこには一つの寝袋で一緒に寝てるハルヒとロングヘアハルヒがいた

鹿君「はあ、髪の毛食ってるぞ…」

ハルヒ「んが…」

鹿君「にしても寝顔はかわいいな」

古泉「同感です」

ハルヒ「ん…」

鹿君「よ、よう」

ハルヒ「キヨン!!」

鹿君「危ないから慌てるな」

ハルヒ「そうね…」

ジー

古泉「では」

ハルヒ「キヨンあんた落書きしてないわよね？」

鹿君「するわけないだろ？第一したら後が怖いそれとお前生き別れの妹がいたんだな」

ハルヒ「そうなのよ!?!昨日優奈さんが『暇潰しにDNA鑑定キットで遊んでたら見つけたから連れてきたいやはや一卵性かなって位似てますな』ってそれとあんたのことジヨンって呼んでたわ」

※たまたまに科学雑誌やガシヤボンにあるよね？

鹿君「ドツペルゲンガーか他人の空似だろ」

時は吹き飛び夜々病院の屋上に誰かいた

鹿君「寝込みを襲いに来たか?…長門」

長門「違う…貴方に謝りに来た」

鹿君「気にするなそれとお前のエラーは深刻なのか？」

長門「人間で言う感情がエラーに『ふぎけんな』何？」

鹿君「感情がエラーだあ?んなもんにお前は苦しめられていたのか!?!ふぎけんな!!お

前は宇宙人だが人間だお前の親玉に伝えときな感情がエラーならお前らは不完全だと  
な」

長門「わかった…」

鹿君「じゃあな」

長門「また…」

少し進み終業式前日のSOS団部室ではなく調理室ではSOS団+αによる鍋パが行われていた

ハルヒ「明日は終業式!!そして明後日はクリスマス会よ!!そのため我がSOS団は英気を養うためには鍋パをします!!まあ、家庭科の先生もいるけど楽しみましょう!!」

優奈「来てよかったのか?」

来客バツチを着けた朝倉「予定が無いからね」

来客バツチを着けたハルヒ「お姉ちゃんに呼ばれたのよ」

不知火「食べないと無くなるぬい」

優奈「そうだな」

ハルヒ「キヨンの奴遅いわね」

来客ハルヒ「お姉ちゃんが一人で買い物に行かせるからだよ」

鹿君「あの声は俺だった…つまるところ未来か、ならちよつと待っていてくれよ今は皆

と鍋を食いたいんだ、  
神様も少しは待っててくれるよな？  
（ただいまつとほれ補充の野菜と豆腐だ」